

32 英語の状態動詞は本当に進行形をとることができないのか

学校教育では「be, like, know, resembleのような**状態動詞 (stative verb)**は進行形をとらない」と教えられる。しかし、実際のところ、このような状態動詞の中には(1)や(2b)のように進行形をとる例もみられる。

(1) I'm living in Tokyo.

(2) a. *I'm liking you.

b. I'm liking you more and more each week. (久野・高見 2010: 1)

例えば、状態動詞のliveは(1)のように進行形をとることができるが、同じ状態動詞のlikeは、(2a)のように非文となる。しかし、(2b)のようにmore and moreとeach weekのような副詞句と共に起ると、文法的となる。ここでは、(1)のliveのような状態動詞の性質を明らかにすると共に、本来不可能なはずの進行形がどうして(1)と(2b)のように可能になることがあるのか、その理由の説明を試みる。

まず、英語の進行形の意味を見てみよう。Kranich (2010: 1)は、英語の進行形は「主に、**進行中の動的状況 (an ongoing dynamic situation)**を表す」と述べている。また、Quirk et al. (1985)によると、進行形の意味は、次の3つに分けられる。

(3) a. 進行形が表す事象には継続 (duration) がある。

b. 進行形が表す事象には限られた間の継続 (limited duration) がある。

c. 進行形が表す事象は必ずしも完結しているとは限らない。

(Quirk et al. 1985: 198)

さらに、Quirk et al. (1985)によれば、(3a, b)は**一時性 (temporariness)**という概念にまとめられる。KranichやQuirk et al.の記述から、進行形で表された事象は「進行中で動的」、「一時性」、「未完了」のいずれかの要素を持っていると言うことができる。

ところで、述語動詞は**アスペクト (aspect)**を持つ。中村・金子 (2002: 31)によると、アスペクトとは「1つの出来事の始まり、経過、終わりに注目する概念」であり、次のように説明されている(ただし、(4a-d)はVendler (1967)による分類)。

(4) a. 状態 (state): 継続性があり、終点がなく、静的。(like, know)

b. 動作 (activity): 継続性があり、終点がなく、動的。(walk, dance)

c. 完成 (accomplishment): 継続性があり、終点があり、動的。(build a

house, draw a circle)

- d. 達成 (achievement) : 継続性がなく, 終点があり, 動的。(reach the summit, notice a sign) (中村・金子 2002: 31)

まず, (4a-d) のうち, 動的か静的かという点で, (4a) の状態のみ静的であり, 他の動的な (4b-d) と区別される。また, 終点があるかどうかという点で, (4a, b) の状態と動作が, (4c, d) の完成と達成と区別される。(4a, b) は終点がないという点で共通しているが, 中村・金子 (2002: 37) は「動作は到達点を加えることにより, 完成に変化する」と述べている。つまり, 文脈によっては, (4b) の動作も終点を示すことがある。よって, (4a) の状態のアスペクトのみ本来的に終点がないと言うことができ, (4a) のような動詞 (状態動詞) が表す事象は, 完了か未完了かを明確に区分できないと言うこともできる。

ここで, (4a) の状態のアスペクトが (4b-d) と区別される点を (5a, b) に示す。

- (5) a. 静的である。

- b. 終点がなく, 動詞が表す事象が完了しているか否か区分できない。

(5a, b) の性質は進行形の持つ要素である「進行中で動的」, 「一時性」, 「未完了」のいずれにも合致しない。したがって, live や like のような状態動詞が使われているにもかかわらず, (1) と (2b) で進行形が可能なのは, これらの例の場合, live や like が (5a, b) の性質を持っていないためだと考えられる。つまり, (1) では, 何らかの理由で一時的に東京に住んでいると解釈できるのであれば, (3a, b) の「一時性」という進行形の意味と合致する。(1) を改変した (6) の例を見てみよう。

- (6) I'm living in Tokyo because I was forced to live there.

(1) は (6) のように because 節を加えることによって, 東京に住むことが一時的で, 後に別の地域へ移り住むことを示唆することになり, より容認可能な文となる。また, (2a) が非文であるのに対し, (2b) が文法的である理由は, (6) と同様に, 副詞句の more and more と each week にある。この副詞句によって, (2b) は週ごとに「君が好きだ」という気持ちの度合いが増していく様を表し, 気持ちに変化し続けていることを示唆している。ゆえに, (2b) は, (1) と同様に, (3a) または (3c) の進行形の意味と合致し, 文法的な文となる。

以上のことを踏まえると, 状態動詞も副詞句等の共起する要素によっては, その性質が変化し, 進行形をとることが可能となる。

(島野 恭平)